

藤田医科大学 研究推進本部 イノベーション推進部門

社会実装看護創成研究センター 2024 年報

Research center for implementation nursing science initiative
Annual report 2024. January 1 – December 31



FUJITA HEALTH UNIVERSITY

目 次

1. メンバー	1
2. センターの概要	1
3. 研究活動実績	4
3－1. 藤田医科大学アクションプランに基づく研究活動	
1) 携帯型エコー使用した排便アセスメントによりケアが選択できる看護師の 育成と上記看護師を含めたチーム医療体制の構築 (PI: 小柳 礼恵)	
2) 看護理工学的アプローチによる次世代型アドバンストスキンケアモデルの 確立 (PI: 光田 益士)	
3) 第 6 のフィジカルアセスメントツールとしてのエコー可視化技術の開発・ 普及: 末梢静脈カテーテル留置技術 (PI: 村山 陵子)	
4) エコーを用いた嚥下視える化データベースに基づく肺炎予防効果の実装研究 (PI: 三浦 由佳)	
5) リンパ浮腫管理成功に向けたエコーを用いたアドバンストリンパ浮腫 ケアモデルの確立と実装 (PI: 臺 美佐子)	
4. 教育活動実績	11
4－1. 学部教育	11
4－2. 大学院教育	12
4－3. 社会実装看護創成研究センター ゼミナール	14
5. 社会的活動実績	16
5－1. 主な学会での活動	16
5－2. 主たる活動実績	18
6. 外部資金獲得	23
7. 研究業績	24

1. メンバー

センター長	教授	須釜 淳子
専任教員	教授	村山 陵子
	講師	小柳 礼恵 (4月1日～准教授)
	講師	三浦 由佳 (4月1日～准教授)
	講師	光田 益士
客員教員	教授	臺 美佐子
	講師	川村 亨平
	講師	渡邊 直美
特別研究員		相原 晶子
研究補助員		荒堀 裕子

大学院生 (下線: 2023 年度修了生) (二重下線: 2024 年度入学生)

博士課程 3 年	佐野 友香、杉山 (間脇) 彩奈
博士課程 2 年	富田 元、石亀 敬子、河裾 永恵、山本 駿
博士課程 1 年	<u>田村 茂</u> 、 <u>前田 初美</u> 、 <u>小笠原 ゆかり</u> <u>上山 (北野) ゆりか</u> (2024 年度休学)
修士課程修了	<u>田村 茂</u> 、 <u>西本 由美</u>
修士課程 2 年	池田 真弓、河崎 明子、野村 梨帆、齋藤 裕也
アドバイザー	真田 弘美 教授 (石川県立看護大学 学長)

2. センターの概要

2021 年 4 月 1 日より藤田医科大学保健衛生学部「社会実装看護創成研究センター」が新設された。2022 年 4 月より大学組織再編に伴い、研究推進本部イノベーション推進部門 (齋藤邦明・部門長) に配置換えとなった。なお、センターに所属する教員は、2023 年 4 月から保健衛生学部看護学科の所属となり、センター兼務となった。「社会実装看護創成研究センター」自体は、2025 年 1 月 1 日付で研究推進本部から保健衛生学部へ移動となる。

臨床現場の技術革新が進む中、看護領域においてもロボットや Information and Communication Technology (ICT)、Artificial Intelligence (AI) などのテクノロジーの有効活用が求められている。一方で、医工連携と異なり、看工連携の社会実装に関する理論および方法論は、未だ確立されていないのが現状である。本センターでは、大学病院や地域包括ケア中核センターと協力し、看護実践の場でこれらの研究を推進するとともに、次世代を担う人材の育成にも取り組む。

体制は、臨床のニーズや課題の抽出、データベース化および実装研究を行う共創型研究部門と、同部門が抽出した課題に対し看護理工学からアプローチする課題焦点型研

究部門の2部門である。(図2-1) 生体・生活情報を導出するシステム構築やデバイス開発を通じて、健康増進や保健・医療、さらには地域包括ケアやまちづくりに寄与することをめざす。

なお、ミーティング室、実験室は9号館5階に設置されている。

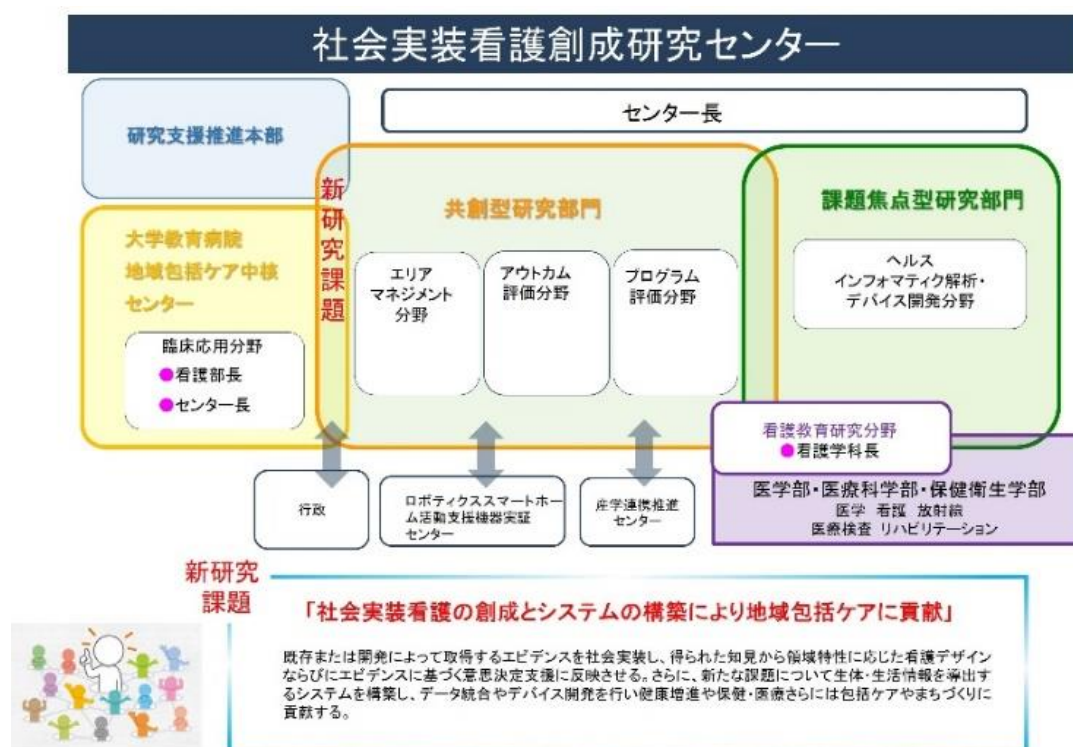


図2-1. 社会実装看護創成研究センター体制図

2024年4月以降5名の教員でセンターの活動を推進した。毎週火曜日午後に研究ミーティングを開催し、センター専任教員が主導する研究の進捗、論文抄読、学術雑誌の最新情報の共有、実装科学の基礎学習を行った。

2024年4月以降に客員教員ならびに特別研究員を委嘱し、共同研究を開始した。「地域に暮らす脊髄損傷者のエコーによるフィジカルアセスメントを基盤とした排便管理の実装」・川村享平氏（特定非営利活動法人リハビリテーションビレッジ 代表）、「喉頭摘出後の患者の食道発声のメカニズムの解明」・渡邊直美氏（日本赤十字豊田看護大学・講師）、「特定行為研修修了者の看護の質評価」・相原晶子氏（保健衛生学部・臨床看護研修センター長）、以上である。

また、教育病院との連携を深めるため、引きつづき毎月1回、第1教育病院看護部（眞野恵好統括看護部長、他）にて、第2～4病院看護部（三鬼達人看護部長、松嶋文子看護部長、小島菜保子看護部長、他）ともオンラインで接続し、臨床研究に関する打ち合わせを行った。（写真2-1）

2023 年 4 月から大学院教育のプラットフォームとしての役割を果たし、2024 年も継続した。看護学科竹原君江教授、中村小百合教授のゼミと合同で毎週月曜日に大学院生の学位論文（修士 8 名、博士 13 名）の進捗報告、論文抄読を行った。



写真 2-1. 看護部との定例ミーティング(2024.4 撮影)

3. 研究活動実績

3-1. 藤田医科大学アクションプランに基づく研究活動

【目指す姿】

世界一独創的な研究拠点へ：未来社会の期待に応える次世代研究の推進
世界に誇れる「藤田の看護」を創成する

【中期目標】

看護理工学を基盤とした看護技術開発の推進、および開発した技術の社会実装の手法を確立しエビデンス・プラクティスギャップを埋める

1) 携帯型エコー使用した排便アセスメントによりケアが選択できる看護師の育成と上記看護師を含めたチーム医療体制の構築 (principal investigator (PI): 小柳 礼恵)

排泄に関するケアの向上には「排尿自立支援加算」「IAD のベストプラクティス」により対策が取られている。高齢者の便秘は有病率が高く死亡リスクも高いとされている。中でも、認知症高齢者は排泄に関する自覚症状を適切に訴えることができず医療者による統一したアセスメントが急務とされている。近年は便秘対策に関するガイドラインも作成され普及されつつある。作成されている。

当センターでは、携帯型エコーを用いたベットサイドにおける便秘の可視化評価の有効性の評価とケアの質向上を目指し研究を実施している。国立長寿医療研究センター排便サポートチームと共同し認知症患者の便秘評価に携帯型エコーを用いた効果検証を実施し学会発表・論文投稿を実施した。日本創傷・オストミー・失禁管理学会の取り組みとし排便管理に関する講習会を開催している。て関連学会、国立長寿医療研究センターと協働し、ている。今後も、当センターは超高齢社会に備え病院、在宅が包括的にチーム医療として便秘対策が可能となるようエビデンス構築と実装研究を進め排泄ケアの質の向上、医療経済への貢献を目標とする。(図 3-1-1)

2024 年の実施事項は以下となる。

(1) 関連学会と連携しエビデンスに基づく排便ケアの啓発

・公益社団法人 日本創傷・オストミー・失禁管理学会

便秘対策アドホック委員会 須釜 淳子、小柳 礼恵 の活動により、排便ケアの質の向上、エビデンスに基づいた排便ケアの普及を推進している。(写真 3-1-1)



写真 3-1-1. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会
便秘対策アドホック委員会 ワーキンググループ
(2024 年 4 月撮影)

（２）高齢者を対象とした排便ケアに関するチーム医療の普及

・国立研究開発法人長寿医療研究センター 排便サポートチームとの協働

超高齢化社会が進む中、認知機能が低下した高齢者のニーズと医療者のアセスメントにより患者へ適切な排便ケアの提供が課題となっている。その課題を解決するために上記施設と協働して排便ケアの質の向上と推進を実施している。

・排便サポートチーム：国立研究開発法人長寿医療研究センター（写真 3-1-2）

病院：松浦 俊博、山田 理、竹内 さやか、

客員研究員：小柳 礼恵

・研究実績は、英語論文 1 本、学会発表 5 本である。

（３）排便ケアに関わる看護師への教育活動

日本創傷・オストミー・失禁管理学会 便秘対策アドホック委員会の活動の一環である「第 2 回排便管理講習会（エコー講習会含む）」では、講師として講習会に協力している。

排便管理講習会（日本創傷・オストミー・失禁管理学会）：
講師 小柳礼恵

次世代看護教育研究所：排泄ケアコース：講師 須釜淳子、
小柳 礼恵

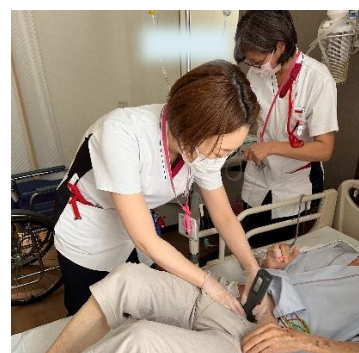


写真3-1-2. 国立長寿医療研究センター：排便サポートチーム
(2024年4月撮影)

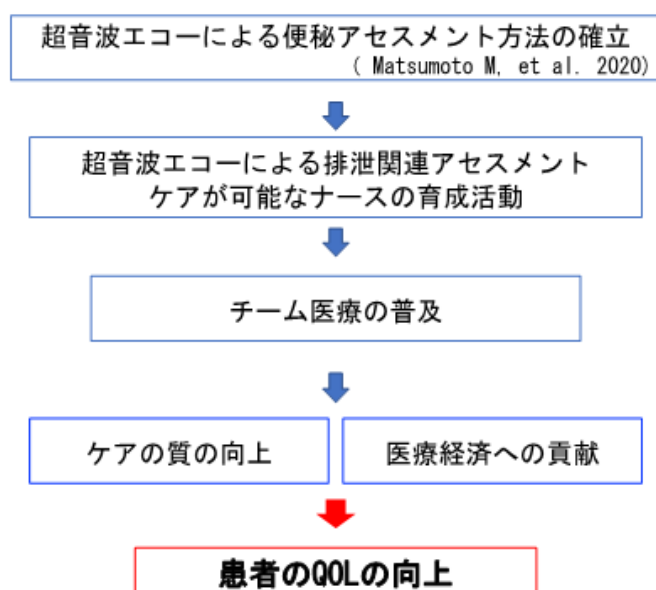


図 3-1-1. 携帯型エコーによる
ベッドサイドでのアセスメント

2) 看護理工学的アプローチによる次世代型アドバンストスキンケアモデルの確立 (PI: 光田 益士)

看護学と理工学との融合型研究を通じて、看護技術の定量化・可視化・効率化、および未来に向けた新たな看護の価値創造への貢献を目指す。藤田医科大学病院看護部、藤田医科大学七栗記念病院看護部、藤田医科大学岡崎医療センター看護部との共同研究、および産学連携による企業との共同研究を多数実施した。以下、2つの基幹研究を報告する。

(1) 褥瘡予防と治療に関する基礎研究、臨床応用および実装科学

・褥瘡発生および治癒遅延に關与する力(ずれ力、摩擦力、圧力)およびその複合力を同時計測する評価モデルを開発し、予防的ドレッシング材および2次ドレッシング材の力の低減効果の証明に貢献した。褥瘡治療時に使用する新規2次ドレッシング材の開発に貢献し、2024年度に企業より発売された。

・在宅療養者を中心とした地域における医療・介護の連携推進を目指す一環で、これまでに在宅での褥瘡予防に利用可能なリスクアセスメントスケール「床ずれ危険度チェック表」、およびそのスケールを活用するための「床ずれ予防プログラム」を開発した。実装科学の観点から、本年度は床ずれ予防プログラム活用の準備性に関する調査を開始している。

(2) 失禁関連皮膚炎の生物学的リスクファクター探索

・失禁関連皮膚炎の予防を目的に新たなアドバンストスキンケア手法の開発を試みている。排尿自立支援が課題となっている脳卒中患者に着目し、脳卒中患者の失禁関連皮膚炎の保有と陰部皮膚表面に存在するウレアーゼ産生菌との間に有意な関連があること、および失禁関連皮膚炎の未保有患者と比較し、保有患者には黄色ブドウ球菌が有意に存在することをこれまでに明らかにしてきた。今年度は、研究対象者を入院患者から地域在住者に広げ、陰部の皮膚かぶれを有している地域在住者は有していない在住者と比較して、ウレアーゼ産生菌を有意に保有していることを立証した。



藤田医科大学七栗記念病院看護部・西山貴子先生との共同研究発表
(第33回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 下関)



藤田医科大学岡崎医療センター看護部・梶川智弘先生との共同研究発表
(第39回日本環境感染学会総会・学術集会, 京都)



藤田医科大学病院看護部・中島真由先生との共同研究発表
(第44回日本看護科学学会学術集会, 熊本)

3) 第6のフィジカルアセスメントツールとしてのエコー可視化技術の開発・普及：末梢静脈カテーテル留置技術（PI: 村山 陵子）

（1）エコーを用いる末梢静脈カテーテル留置技術の実装研究（藤田医科大学病院）

2022年度から、末梢静脈カテーテル留置の際に活用するツールとしてエコー活用技術の普及の段階に入っていた。カテーテル留置技術にエコーを取り入れたアルゴリズムのなかでは、①血管選定时、②穿刺時、③カテーテル固定時、におけるエコー使用を促している。がん薬物療法においては、その中でも①血管の選定时、そして③血管内に留置されたカテーテルの確認のためのエコー活用が、血管の温存、および安全・安楽なケアの提供に欠かせないという臨床現場のニーズがあることを確認し導入を進めていった。

中間結果をまとめたところ、2023年度内には継続してエコーが使用されていなかった。そこで2024年は実装の阻害要因・促進要因を整理するためのインタビュー調査を行った結果をまとめ、実装戦略に活かした。具体的には現場の看護師（特にチャンピオン）とともに対策を検討し、部署全体で再度エコーに関する取り組みの必要性、共通認識を確認するとともに、外来での看護体制の見直し、多職種との連携、ケアの手順化などを進め、前述したアルゴリズムにおける③血管内に留置されたカテーテルの確認のためのエコー活用については、90%を超えるまでになった。そのエコー導入経緯については、次の2つの学会で藤田医科大学病院での看護部の取り組みとして紹介するまでになった。

- 第28回日本看護管理学会学術集会 ランチョンセミナー

「ケアの質向上のためにエコーを活かす：安全・安心な化学療法における末梢静脈カテーテル留置に向けて」（座長：村山陵子）

講演者：眞野 恵子 統括看護部長、神納 美保 看護長（写真 3-1-3）

- 第55回日本看護学会学術集会 ランチョンセミナー

「エコーが使える！：化学療法における安全・安心な末梢静脈カテーテル留置」

（座長：村山陵子） 講演者：神納 美保 看護長（写真 3-1-4）



写真 3-1-3. 第28回日本看護管理学会学術集会



写真 3-1-4. 第55回日本看護学会学術集会

なお、本研究は科学研究費 基盤研究（B）「点滴トラブル発生を予防する末梢静脈カテーテル留置管理基準：日本版の開発と普及」の補助金交付を受けて実施したものであり、2023年度が最終年度だったため、上記の結果も含め報告書を作成、提出した。

（２）エコーを用いる可視化技術の教育体制のモデルの確立

①看護基礎教育におけるエコー活用方法の習得

看護理工学会の学術委員会の研究プロジェクトに採択されたことを受けて、次のように活動を展開した。

- プロジェクト名：看護学生のためのエコーを用いるフィジカルアセスメント技術導入促進プロジェクト

- プロジェクトメンバー：

竹原君江	藤田医科大学保健衛生学部看護学科
村山陵子	藤田医科大学保健衛生学部看護学科
樋之津淳子	札幌市立大学看護学部
阿部麻里	東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻
四谷淳子	福井大学学術研究院医学系部門看護学系領域
松井優子	公立小松大学保健医療学部看護学科
高木良重	福岡大学医学部看護学科
巻野 雄介	日本赤十字豊田看護大学
鈴木美穂	慶應義塾大学看護医療学部
村井孝子	純真学園大学保健医療学部看護学科
澤野弘明	愛知工業大学

- 目的：看護基礎教育で「エコーを聴診器のように使用しよう」と考えられる学生を育てる
- 活動内容：今年度は学内演習で用いる教材（資料）の作成をした。次年度から教材を利用した効果検証の研究を各メンバーの大学で開始できるよう、研究計画を立案した。

今後、看護系研究者、工学系研究者と共同で教育体制のモデル構築を目指し、2026年8月まで活動していく予定である。

②看護師の卒後教育（院内教育）におけるエコー活用方法の習得

薬物療法センターの看護師により、外来にヘルプとして勤務する院内各部署の看護師に対して、エコーによる血管観察の方法が指導されている。今後、その指導を受けた看護師が、病棟で活用できるようになることを期待する。

また、臨床看護研修センターで行っている特定行為研修において、「看護師のエコー実践」がシラバスに入り、演習1単位×2回の講師を担当した。

（３）エコーを用いたカテーテル留置技術をサポートする周辺機器開発

医療機器開発企業との共同研究により、PIの前任の大学在任中、より血管径の大きい静脈がある上腕に留置できるカテーテル（テルモ株式会社）を開発した。そのカテーテルの薬事承認を取得することができた（12月）。上市は2025年度の予定である。

4) エコーを用いた嚥下視える化データベースに基づく肺炎予防効果の実装研究 (PI: 三浦 由佳)

AI を用いて誤嚥物・咽頭残留物が自動で着色されたエコー画像を含むデータベースから、誤嚥性肺炎の予防のためのケア介入アルゴリズムを提案する仕組みを作り、介入の実装評価を行うことが目的である。これまでに、AI を用いたエコーによる咽頭残留物の定性・定量的評価方法の開発を目指し、リハビリテーション学科と共同し 3D-CT 画像とエコーの同時撮影方法を作成した。さらに 2024 年度は、学内の工学系研究者と共同し、嚥下エコー学習用ファントム作成のための気管や咽喉頭の鋳型を光造形 3D プリンターを用いて作成した。ファントムは今後、誤嚥物・咽頭残留物の観察教育プログラムに導入予定である。現在、エコー技術の訓練を受けた看護師がサーバーに上げたエコー画像をケア介入アルゴリズム作成のために分析しているところである。

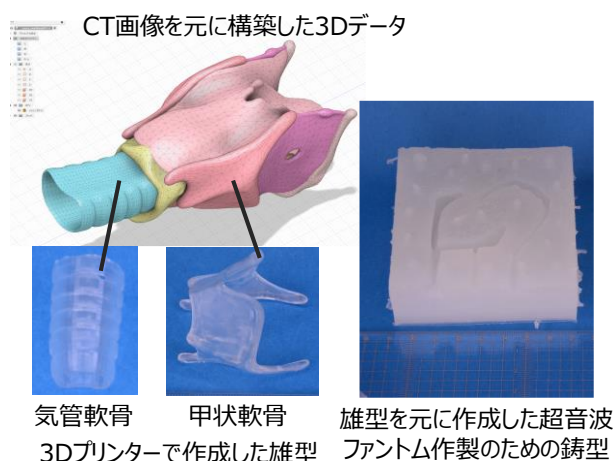


図 3-1-2. 嚥下エコー学習用ファントムの作成



図 3-1-3. サーバー上でのエコー画像の蓄積の流れ

5) リンパ浮腫管理成功に向けたエコーを用いたアドバンスドリンパ浮腫ケアモデルの確立と実装 (PI: 臺 美佐子)

(1) リンパ浮腫のケア選定のためのエコーアルゴリズムの考案と実装

リンパ浮腫管理におけるエコー評価は、診断・重症度評価・ケア選択と各目的に応じて国内外で検討が進められている。これまで、リンパ浮腫患肢の特徴的なエコー所見が明らかにされてきたものの、どのような真皮・皮下組織の内部性状であれば、どのようにケアを選択すれば良いか明らかでなかった。そこで、今年度、リンパ浮腫患肢の特徴的なエコー所見から、リンパ浮腫ケア選定をアシストするエコーアルゴリズムを考案し、さらに医療従事者への教育の有効性を図った。

アルゴリズムは、スコーピングレビューと質的研究とを統合することで作成した。スコーピングレビューでは、リニア型プローブ・10-18MHz 周波数のエコーで真皮・皮下組織を観察した研究を選定し、層構造、浅筋膜、敷石様像、真皮低エコー所見の特徴が、圧迫療法や徒手リンパドレナージによってどのような所見変化がなされるのかをまとめた。レビューのスクリーニングは、独立した2名の研究者として、レビュー経験の豊富な社会実装研究センターの三浦由佳准教授と、学際的かつ臨床的に知見の広いリハビリテーション学科の小山総市朗准教授らによって実施され、臺を含めて結果の統合に向けたディスカッションを重ねることでアルゴリズム化を図った(論文執筆中)。次に、このアルゴリズムについて、臨床での実践との乖離がないかを、リハビリテーション部門でリンパ浮腫管理を専門とする CARE Project のメンバー(医師・理学療法士・作業療法士)を含め、全国のリンパ浮腫管理の専門家を対象にインタビューし、おおむね賛成できるとの回答を得て、アルゴリズム完成とした(論文執筆中)。さらに、このアルゴリズムが臨床で活用されるよう、リンパ浮腫エコーアセスメント教育プログラムを構築し、藤田医科大学病院や藤田医科大学訪問看護ステーションをはじめ全国のリンパ浮腫管理に携わる医療従事者を対象として、E-learning による教育の有効性を明らかにした(論文執筆中)。現在、リンパ浮腫遠隔ケアシステムへの導入のために、技術およびケア環境の整備を行っており、リンパ浮腫管理の新たな方法としての提案が可能となる(図 3-1-4)。この研究成果が結実した際には、リンパ浮腫ケアの適切な選定が可能となり、浮腫増悪防止ならびに蜂窩織炎再発率の低減が期待できる。

なお、本研究の取り組みは世界的に高く評価され、Journal of Wound Care Awards 2025 の Compression Therapy for Venous and Lymphatic Disorders 部門で Gold Award を受賞した。



図 3-1-4. 今後の展望

4. 教育活動実績（2024 年度として掲載）

4－1. 学部教育†

科目名	開講時期	担当者†
基礎科目		
基礎ゼミ	1 年前期	村山、小柳、光田、三浦
自然科学	1 年前期	光田
専門科目		
看護学概論	1 年前期	光田
アセンブリⅡ‡	2 年全期	光田、三浦
アセンブリⅢ‡	3 年全期	光田
看護管理学	4 年前期	小柳
基本看護技術Ⅱ	1 年後期	村山、光田
看護過程展開論Ⅱ	2 年前期	村山、小柳
看護研究方法論	3 年前期	光田
リハビリテーション看護	3 年前期	光田
卒業研究	4 年全期	須釜、村山、小柳、光田、三浦
老年看護学概論	1 年後期	須釜
老年看護学援助論	2 年後期	須釜、三浦
老年看護実践方法論	3 年前期	須釜、三浦
老年看護学実習Ⅰ	3 年後期	須釜、三浦
老年看護学実習Ⅱ	4 年前期	須釜、三浦
統合看護学実習	4 年前期	村山、小柳、光田
リハビリテーション学科 一般臨床医学	2 年前期	小柳

†：授業・演習の一部でも担当した場合を記載，‡：専門職連携教育

4－1－1. 卒業研究論文

卒業研究は、看護学科 4 年次生 136 名が 8 つの分野に配置され、うちセンター教員が 16 名を担当した。全員が論文提出に至った。

老年看護学分野（7 名）

縣さくら	独居の認知症高齢者への退院支援についての文献検討
伊藤寧南	在宅の認知症高齢者の意思表示を確認するための家族とのコミュニケーションの実態について
小林実生	BPSD 症状により攻撃性の高まった認知症患者を介護する家族の介護負担軽減のための看護に関する文献検討
鈴木彩夏	術後せん妄に効果的な看護についての文献検討

高井彩菜	終末期の高齢者の ACP と介護者への自宅における支援についての文献検討
高木百花	一人暮らしをしている男性高齢者の食行動の実態
長嶋沙也加	コミュニケーションロボットを用いることが施設利用高齢者の認知機能に与える影響についての文献検討

統合看護学分野（9名）

荒谷 美羽	2 型糖尿病患者に対する看護師の支援方法についての文献研究
栗田 いつき	終末期がん患者の生理的欲求の不充足感への看護に関する文献検討—今後の終末期がん看護の援助の示唆について—
仙敷 真奈	慢性期統合失調症患者が抱える不眠に対する看護支援
田中 瞳	看護師におけるデスカンファレンスの効果
長谷うたい	日本での動物介在療法導入の促進に関する文献検討
長谷川 彬人	男性看護師が働きやすい環境に関する文献検討～看護の現場における男性看護師に対する役割期待と理解度から考える～
番 梨々花	認知機能に対する回想法の種類と効果
星野 菜摘希	急逝した患者遺族の死の受容についての文献検討
水谷 風沙	災害時に必要とされるメンタルヘルスケアの文献検討

4－2．大学院教育†

科目名	開講時期	担当者†
保健学研究科保健学専攻 修士課程		
共通科目		
看護研究法	前期	須釜、村山、小柳、光田、三浦
看護理論	後期	小柳
保健実践入門	後期	須釜、光田
看護学領域		
基礎・統合看護学特論Ⅰ	前期	村山、小柳、光田
基礎・統合看護学特論Ⅱ	後期	村山、小柳、光田
基礎・統合看護学演習Ⅰ	前期	村山、小柳、光田
基礎・統合看護学演習Ⅱ	後期	村山、小柳、光田
成人・老年看護学演習Ⅰ	前期	須釜、三浦
成人・老年看護学演習Ⅱ	後期	須釜、三浦
基礎・統合看護学特別研究	全期	村山、小柳、光田
成人・老年看護学特別研究	全期	須釜、三浦
保健学研究科保健学専攻 博士後期課程		
共通科目		
保健科学概論	前期	須釜、村山
保健科学研究論	後期	須釜、村山

専門科目		
保健看護融合科学特論	前期	須釜、村山
保健看護融合科学演習	後期	須釜、村山
保健看護融合科学研究	全期	須釜、村山

†：授業・演習の一部でも担当した場合を記載

4-2-1. 博士論文

センター所属教員が指導を担当した博士課程の学生2名が論文を提出した。

佐野 友香

Prevalence of constipation and associated factors in university hospital inpatients

高度急性期病院における入院患者の便秘有病率と便秘に関連する要因

Fujita Medical Journal (DOI: <https://doi.org/10.20407/fmj.2024-006>)

指導教員：須釜 淳子

杉山（間脇） 彩奈

Effect of docetaxel administration on fluid dynamics in mice

ドセタキセル投与がマウスの間質液動態に与える影響

Fujita Medical Journal (DOI: <https://doi.org/10.20407/fmj.2024-023>)

指導教員：須釜 淳子

4-2-2. 修士論文

センター所属教員が指導を担当した修士課程の学生4名が論文を提出した。

池田 真弓

嚥下エコーの教育プログラムにおける課題と改善策の提案－喉頭蓋谷と梨状窩の画像評価とインタビュー－

Challenges and improvement plans in the education program for swallowing ultrasonography : evaluation of images of the epiglottis and the piriform sinus and interviews

指導教員：須釜 淳子

河崎 明子

体圧分布の可視化が看護師の褥瘡予防に関する知識、行動に与える影響－緩和ケア病棟における一群前後比較試験－

Visualization of body pressure distribution influences nurses' knowledge and behavior regarding pressure injury prevention: one group pretest/posttest comparison study in palliative wards

指導教員：須釜 淳子

齋藤 祐也

中間看護管理者への承認行為取得のための教育プログラムの開発 ―中堅看護師に
対してのアプローチ―

Development of an educational program for acquiring recognition behavior for mid-level nursing
managers: approach to mid-level nurses

指導教員：村山 陵子

野村 梨帆

新生児の生後早期における皮膚成熟過程の検討

Investigation of the Skin Maturation Process in Newborns During the Early Postnatal Period

指導教員：村山 陵子

4－3．社会実装看護創成研究センター ゼミナール

2022 年度からゼミナール（通称ゼミ）を開始している。2023 年度のゼミからはセンター
に所属する教員が指導責任者となる院生のみならず、基礎看護学、成人看護学分野教員が指
導責任者となる院生も含めた。したがって、2024 年度は次の必修単位取得科目を兼ねるも
のである。

- 基礎・統合看護学演習Ⅰ，Ⅱ（2+2 単位）
- 成人・老年看護学演習Ⅰ，Ⅱ（2+2 単位）
- 基礎・統合看護学特別研究（10 単位）
- 成人・老年看護学特別研究（10 単位）
- 保健看護融合科学演習Ⅰ（2 単位）
- 保健看護融合科学研究（6 単位）

1）出席メンバー（2024 年度）

担当教員：須釜 淳子、村山 陵子、竹原 君江、中村 小百合、皆川 敦子、

小柳 礼恵、光田 益士、三浦 由佳、中井 彩乃、玉置 美春

博士課程 3 年 佐野 友香、間脇 彩奈、有賀 公亮（名古屋大学大学院）

博士課程 2 年 石亀 敬子、影浦 直子、河裾 永恵、富田 元、山本 駿

博士課程 1 年 田村 茂、小笠原 ゆかり、桂川 清多、前田 初美、松田 奈々

修士課程 2 年 池田 真弓、稲熊 清人、河崎 明子、齋藤 裕也、野村 梨帆

修士課程 1 年 酒井 沙藍、田中 悠偉人、内藤 千尋

2）概要

- 文献を読む力をつけるために、文献を精読する機会を提供する。さらに、教育に関する
報告書やガイドラインなどを読む機会を提供する。そのことにより、看護教育を取り巻
く現状を理解し、研究テーマを見いだすことを支援する。
- 文献のクリティークを通して、看護教育学研究ならびに社会実装看護研究を進めるため

に必要な知識とクリティカルな思考を身につけられるよう、支援する。その過程で、研究を進める中で生じる疑問や課題を解決するための能力を養えるよう、課題を提示する。

- Ⅲ. 研究課題を明確化し、研究計画を作成する。次に、作成した研究計画を倫理委員会に提出し承認を得る。さらに、研究を実施し参考論文を作成し公表するとともに、修士・博士論文としてまとめ、発表を行う。

3) 内容

研究報告、論文紹介、論文クリティークを準備、発表、ディスカッション
基本的にオンライン (Teams) にて実施した。

4) 2024 年開講日時 (日時はすべて、月曜日 6, 7 限 : 18:00-21:10)

2023 年度

1 月 15, 22, 29 日 / 2 月 5, 19, 26 日 / 3 月 4, 11, 18 日

2024 年度

4 月 22 日 / 5 月 13, 20, 27 日 / 6 月 3, 10, 17, 24 日 / 7 月 1, 8, 22, 29 日

8 月 5, 19, 26 日 / 9 月 2, 30 日 / 10 月 7, 21, 28 日 / 11 月 11, 18, 25 日

12 月 2, 9, 16 日



写真 4. 2024 年 4 月入学式のセンターゼミー同
左から前列: 松田・上山・田村・桂川・前田・小笠原
後列: 玉置・中村・皆川・竹原・内藤・田中・酒井・須釜・村山・須釜, 小柳・三浦・光田(写真)

5. 社会的活動実績

5-1. 主な学会での活動

【学会での役割】

〈国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会〉

須釜淳子	
役割	理事長

〈日本褥瘡学会〉

須釜淳子	
役割	理事長、在宅褥瘡予防に関するアドホック委員会委員長
光田益士	
役割	評議員、在宅褥瘡予防に関するアドホック委員
成果	第25回日本褥瘡学会の中で、在宅褥瘡予防に関するアドホック委員会企画を実施
小柳礼恵	
役割	評議員

〈日本褥瘡学会 中部地方会〉

須釜淳子	
役割	監事

〈日本創傷・オストミー・失禁管理学会〉

須釜淳子	
役割	副理事長、編集委員会委員長
成果	学会誌発行
村山陵子	
役割	評議員、査読委員
成果	学会誌発行に向けた論文査読に貢献した。
小柳礼恵	
役割	理事、便秘対策アドホック委員会委員長、評議委員
成果	排便管理講習会の実施、排便管理に関するチーム医療の評価（エビデンス研究）
役割	第34回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 組織委員会
成果	学術集会プログラムの検討

〈日本看護科学学会〉

須釜淳子	
役割	理事、看護ケア開発・標準化委員会委員長、COVID-19看護研究等対策委員会委員長
成果	日本薬理学会との共催シンポジウムをそれぞれの年次大会で企画・運営 第43回日本看護科学学会（12月10日）、第94回日本薬理学会年会（12月16日） 看護ケアのための便秘時の大腸便貯アセスメントに関する診療ガイドライン発刊（和文、英文） 東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターに対し、COVID-19の会員への影響調査（2回分）で得られたデータを匿名化処理した上で寄託
村山陵子	
役割	査読委員
成果	日本看護科学学会誌発行に向けた論文査読に貢献した
小柳礼恵	
役割	看護ケア開発・標準化委員会 ・看護ケアのための高齢者の便秘時の大腸便貯留アセスメントに関する診療ガイドライン作成グループ ・看護ケアのための高齢者の尿失禁を軽減する排尿誘導診療ガイドライン 推奨度パネリスト
成果	ガイドライン作成に貢献した

〈日本創傷治癒学会〉

須釜淳子	
役割	理事、COI
光田益士	
役割	評議員

〈看護理工学会〉

須釜淳子	
役割	理事長
村山陵子	
役割	評議員、学術委員会・委員、編集委員会・委員
成果	学術委員会プロジェクト（「看護学生のためのエコーを用いるフィジカルアセスメント技術導入促進プロジェクト」）メンバー
光田益士	
役割	評議員、将来構想委員、編集委員
成果	学会誌発行に向けた論文査読2件実施した

〈日本助産学会〉

村山 陵子	
役割	査読委員
成果	学会誌発行に向けた論文査読に貢献した

〈日本VADコンソーシアム〉

村山陵子	
役割	評議員
成果	「輸液カテーテル管理の実践基準」改定作業に貢献した

〈日本血管内留置カテーテル研究協議会〉

村山陵子	
役割	顧問
成果	協議会発足にあたり発起人のひとりとして貢献した

〈看護実践学会〉

村山陵子	
役割	査読委員
成果	看護実践学会誌発行に向けた論文査読に貢献した

〈日本老年泌尿器学会〉

小柳礼恵	
役割	評議委員

〈日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会〉

小柳礼恵	
役割	世話人

5－2．主たる活動実績

1) 病院看護研究支援

【研究活動支援】

(1) 論文投稿支援

藤田医医科大学教育病院看護部の看護師が筆頭著者となる論文投稿支援を個人指導の形式で行った。掲載、採択、査読状況は以下のとおりである。

英語論文 2 編 掲載済み、和文（原著）1 編査読中、
和文（実践報告）2 編採択、和文（実践報告）2 編査読中

(2) 病院職員依頼共同研究：マッチング

2024 年 2 月末現在

- ・論文投稿済み：1 件
- ・研究実施中：9 件

（３）藤田研究支援チーム「るぴ&Lab.」

藤田医科大学 4 拠点病院、社会実装看護創成研究センター、看護学科が協働し、看護研究活動を支援するしくみづくりを促進するため、次のような目的でチームを 2023 年度末に設立した。

目的

1. 藤田医科大学における看護研究の質を高め、藤田ならではの看護の発展に貢献するために、病院看護部と社会実装看護創成研究センター・大学看護学科との看護研究の協働・連携を深める
2. 相互の連携を図りながら、臨床看護研究を促進、さらに指導できる人材を育成する

役割

- 1) 病院で看護研究を実施するためのマニュアルの作成
- 2) 研究支援希望者の把握
- 3) 各拠点病院、センター、看護学科の共同研究のマッチング
- 4) 研究進捗状況の把握
- 5) 看護部研究支援チームメンバーの育成

チーム内組織のメンバー（2023 年度）

第 1：宮下 照美 看護長 第 2：水谷 多紀子 看護長
第 3：竹腰 加奈子 看護長 第 4：三浦 慎太郎 看護副主任
社会実装看護創成研究センター 村山 陵子 小柳 礼恵
保健衛生学部看護学科（第 1 教育病院との連携ワーキング）
竹原 君江 皆川 敦子 加藤 睦美

毎月 1 回のミーティングを開催し、上記 1)～5) の役割を遂行している。2024 年 12 月現在、「るぴ&Lab.」への研究申請件数は 37 件、うち「るぴ&Lab.」で支援体制を整えたのは 12 件あり、研究計画立案、倫理申請書作成が円滑に進められるようサポートを行っている。

2) がん看護チーム支援活動

がん看護の質向上を目的として、2021 年 9 月に 4 病院（藤田医科大学病院、ばんだね病院、七栗記念病院、岡崎医療センター）と社会実装看護創成研究センターとが連携し、がん看護チームを構築した。2024 年度のがん看護チームは、活動目的を「各拠点のがん分野専門・認定看護師が、藤田のがん看護の質向上を目指し活動を行う」とし、がんに関する研究の実施、各施設の取り組み内容の可視化と共有を行っていった。定例会議は隔月 1 回のオンライン会議であった。4 病院のがん分野の認定看護師・専門看護師 15 名（がん専門看護師、がん性疼痛看護認定看護師、がん化学療法認定看護師、がん放射線療法看護認定看護師、緩和ケア認

定看護師、乳がん認定看護師）が主軸となって運営し、社会実装看護創成研究センターの須釜、村山が学術活動への支援を行った。

当センターからは、エコーを用いる末梢静脈留置カテーテル管理についてアドバイスや研修での講師を務める、などでサポートを行った。2024年度は、地域がん診療連携病院として、がん看護の均てん化に寄与するため、院内・院外に向けて毎年実施している「がん看護研修」において、「エビデンスのあるがん看護実践にチャレンジ」というテーマのもと、「可視化すると適切なケア選択につながる～ナースのエコーデビュー～」というオンライン講義を、村山が担当して実施した。さらに看護師が末梢静脈カテーテル留置時にエコーを活用することによる看護師・患者に及ぼす影響・効果を検証する研究計画立案を4病院共同で進めた。

また、チームではメンバー全員が研究、症例報告、実践報告等、1件以上発表するという目標を掲げており、当センターでは、発表や論文作成を可能な限り支援している。2024年内は学術集会発表6件、和文論文1件、英語論文2件（水谷 洋氏、神納 美保氏）が掲載に至った。

今後も、がん看護分野におけるFujita看護をしっかりと確立するとともに、国内外のがん看護の質向上を目指せるようなチーム活動をサポートしていく。

3) 排便サポートチーム活動

高齢者を対象とした排便ケアに関するチーム医療の普及・国立研究開発法人長寿医療研究センター 排便サポートチームのメンバーとして超高齢化社会が進む中、認知機能が低下した高齢者のニーズと医療者のアセスメントにより患者へ適切な排便ケアの提供が課題となっている。その課題を解決するために上記施設と協働して排便ケアの質の向上と推進を実施している。

また、今後は藤田医科大学4拠点病院の皮膚・排泄ケア認定看護師を中心として、エコーを活用した排泄ケアを普及し、排泄管理の質向上のためのチーム活動の準備を実施する予定である。

4) リハビリテーション科とのリンパ浮腫管理の実践と研究活動

藤田医科大学リハビリテーション科と社会実装看護創成研究センターと協働し、2022年1月にリンパ浮腫管理の質向上を目的としたチーム“CARE Project”を発足し、継続している。CARE Project チームメンバーは、リハビリテーション科ではリハビリテーション医学専門の医師である大高洋平教授・尾関恩准教授、理学療法学専門の小山総市朗講師をはじめ、理学療法士、作業療法士らと、社会実装看護創成研究センターの須釜、臺から成る。設立して以降、毎月1回の定例会議を実施しており、現在はハイブリッド形式で継続している。定例会議では、研究進捗報告、リンパ浮腫管理症例報告、リンパ浮腫エコーアセスメントの画像提示とフィードバック、アウトカム検討といった内容についてディスカッションを図っている。

【上肢リンパ浮腫 QOL 評価研究】

上肢リンパ浮腫 QOL 評価（LYMQOL 上肢版の日本語版作成）を、社会実装看護創成研究セン

ター・リハビリテーション科・看護学科（キム・チュウアイ助教主導）と協働して開始し、今年度、論文投稿に至った。

5) 勉強会の実施

【英語論文抄読会】

看護学科教員有志と月1回英語論文抄読会を開催した。12月末段階で通算40回実施した。参加人数は16名である。2024年4月から「医学・看護論文を読み解いて臨床に活かす方法（康永季生監修，新興医学出版社）」の輪読も始めた。

【次世代看護研究会】

普段は異なる環境や立場で研究活動に従事しつつも、看護理工学に基づく共通の理念を有する者が交流を深め、ディスカッションを通じて互いに高め合い、ひいては次世代の看護学の発展に資することを目的とした研究会が、2022年から発足した。特に次世代の看護を担う若手研究者の育成に重点をおくものとされた。

<参加校の代表者>

石川県立看護大学：真田 弘美 学長・教授、紺家 千津子 教授

金沢大学：大桑 麻由美 教授

東京大学：仲上 豪二郎 教授

藤田医科大学：須釜 淳子 教授

横浜市立大学：赤瀬 智子 教授

<次世代看護研究会企画ワーキンググループメンバー>

石川県立看護大学：峰松 健夫 教授

金沢大学：大江 真琴 教授

東京大学：仲上 豪二郎 教授

藤田医科大学：村山 陵子 教授

横浜市立大学：玉井 奈緒 教授

<第3回次世代看護研究会>

実行委員：藤田医科大学（村山陵子、小柳礼恵、三浦由佳、光田益士）

日 時：2024年9月8日（日）8:40～16:30

場 所：藤田医科大学 3号館 5階 511講義室

参加費：無料

開催形式：ハイブリッド形式

参加校：藤田医科大学，石川県立看護大学，金沢大学，東京大学，横浜市立大学

参加者は合計76名（現地参加53名 オンライン23名）で、発表者は27名であった。本学からは、教員9名、大学院生17名が参加し、教員2名、修士課程2名が1人13分（7分プレゼンテーション、6分質疑、講評）で発表した。



写真 5. 第 3 回次世代看護研究会集合写真

6. 外部資金獲得

【科学研究費助成事業（科研費）研究代表者分】（金額は2024年度）

1. 基盤研究（B）
ドセタキセル療法に関連する下肢浮腫への薬理作用機序に基づく先制予防ケアの開発
2023年度～2025年度 須釜 淳子（代表） 3,100千円
2. 基盤研究（B）
NICUにおける末梢静脈カテーテル関連の有害事象発症予防ケア基準の開発と普及
2024年度～2027年度 村山 陵子（代表） 3,380千円
3. 基盤研究（B）
在宅でのエコーを用いた嚥下視える化データベースに基づく介入の肺炎予防効果の検証
2022年度～2025年度 三浦 由佳（代表） 1,500千円
4. 挑戦的研究（萌芽）
睡眠中の誤嚥予防と安楽保持に最適な姿勢を促すロボティクスクッションの開発
2023年度～2024年度 三浦 由佳（代表） 2,300千円
5. 基盤研究（C）
アドバンストスキンケア開発を目指した失禁関連皮膚炎と細菌バイオフィーム形成の関連
2023年度～2025年度 光田 益士（代表） 1,000千円
6. 若手研究
急性期病院における1日に必要な“看護師の人数・看護師情報”予測スケールの開発
2022年度～2026年度 小柳 礼恵（代表） 780千円

【その他の助成金】（金額は2024年度）

1. 共同研究（日本製紙クレシア株式会社）
2022年度～2024年度 須釜淳子、光田益士 金額非開示
2. 受託研究契約（アルケア株式会社）
2023年度～2024年度 光田益士 金額非開示
3. 受託研究契約（アルケア株式会社）
2023年度～2024年度 光田益士 金額非開示
4. 奨学寄附金（アルケア株式会社）
2024年度 光田益士 金額非開示
5. （公財）テルモ生命科学振興財団 2023年度Ⅲ研究助成「看護の研究」
2023年度～2024年度 小柳礼恵 1000千円

7. 研究業績

【論文】

1. 村山 陵子, 阿部 麻里. 超音波検査装置を用いる末梢静脈カテーテル留置・固定のための新ドレッシングフィルムの開発. 看護理工学会誌, 2024; 11:106-111.
2. 菊池 鏡平, 朱 美恵, 前島 直美, 村山 陵子. 救命救急センターにおける ICU ダイアリーの効果. 看護実践学会誌, 2024; 36(1): pp.27-35.
3. Kohta M, Yunoki S, Sugama J. Effect of prophylactic dressings to reduce pressure injuries: a polymer-based skin model. J Wound Care 2024;33(sup2): s4-s9.
4. Tsubouchi H, Awaji T, Hirose R, Kishida K, Yamashita S, Furuya K, Chang Y, Shikado K, Kohta M, Ogita K. Preventive effect of hydrocolloid dressings on hypertrophic scarring of post-cesarean section wounds: A randomized pilot study. Adv Skin Wound Care. 2024; 37(7):360-367.
5. Oe M, Saad SS, Jais S, Sugama J. Differences in characteristics between first-ever foot ulcer and recurrent foot ulcer in patients with diabetes: prospective observational study. Health Sci Rep 2024; 7: e2018.
6. Oe M, Saad SS, Jais S, Jais S, Sugama J. Impact of foot ulcer-related factors on quality of life in patients with diabetes: Prospective observational study. Int Wound J 2024; 21: e14895.
7. Sano Y, Matsumoto M, Akiyama K, Urata K, Matsuzaka N, Tamai N, Miura Y, Sanada H. Evaluating accuracy of rectal fecal stool assessment using transgluteal cleft approach ultrasonography. Healthcare 2024; 12:1251.
8. Kessoku T, Matsumoto M, Misawa N, Tsuda M, Miura Y, Uchida A, Toriumi Y, Onodera T, Arima H, Kawamoto A, Sugama J, Matsushima M, Kato M, Manabe N, Tamai N, Sanada H, Nakajima A. Expert Consensus Document: An Algorithm for the Care and Treatment of Patients with Constipation Based on Ultrasonographic Findings in the Rectum. Diagnostics. 2024; 14(14):1510.
9. 中村 義徳, 光田 益士. 在宅での褥瘡予防のためのリスクアセスメントスケールの予測妥当性の検討. 天理医学紀要 2024; 27(1): 11-18.
10. Sano Y, Sugama J, Hiroe K, Murayama R, Kohta M, Ishihara T, Mano K. Prevalence of constipation and associated factors in university hospital inpatients. Fujita Med J. 2024; 10(4):98-105.
11. Mizutani H, Dai M, Hayashi S, Saito Y, Jinno M, Nishida H, Kakuya C, Takai A, Sugama J, Mano K. Rectal content and area in cone-beam computed tomography during intensity-modulated radiation therapy for prostate cancer. J Nurs Sci Engineer. 2024; 11: 247-254.
12. Koyanagi H, Matsuura T, Takeuchi S, Yamada S, Ishihara T, Sugama J. Evaluation of the health care team intervention for constipation in elderly patients with dementia. J Jpn WOCM. 2024; 28 (1): 49-56.
13. Kohta M, Sugama J. Comparison of skin protective multilayered silicone foam dressings in reducing friction, shear force, and pressure: an experimental study using a polyurethane-based skin model. J Jpn WOCM. 2024; 28 (1): 57-63.
14. Jinno M, Dai M, Ito K, Ando Y, Toyosato-Nishibe S, Akiyoshi M, Noda S, Matsuda H, Tsujii N,

- Zennami M, Yamamura M, Katagata Y, Ito A, Takai A, Yamada S, Kawada K, Sugama J, Mano K. Implementation of support meetings for patients undergoing outpatient chemotherapy by a multidisciplinary cancer team. *Fujita Med J*. 2024; 11(1)
15. Tasaki A, Dai M, Mawaki A, Koyanagi H, Kobayashi N, Sato K, Takizawa R, Sugama J. Comprehensive and disease specific quality of life in Japanese young people with primary lymphoedema: a case series. *Lymphoedema Res Pract*. 2024; 12:1-12.
 16. Takesashi M, Kohta M, Ishikame K, Miura Y, Sugama J. Association between incontinence-associated dermatitis and reduced quality of life in community-dwelling adult women with light urinary incontinence. *J Jpn WOCM*. 2024; 28:79-93.
 17. Kazawa K, Yoshinaga N, Tomotaki A, Yokota S, Nakagami G, Fukahori H, Shimpuku Y, Ikeda M, Tanaka M, Sugama J. Changes in research activity and obstructive factors among nursing researchers during the first two years of the COVID-19 pandemic: A longitudinal study. *J Int Nurs Res*. 2025;4(1):e2023-0039.
 18. Kohta M, Sugama J. Involvement of urease-producing bacteria on genital skin in community-dwelling women with incontinence associated dermatitis: A cross-sectional study. *J Multidiscip Healthcare* 2024; 17: 5737-5747.

【学会発表】

1. 石黒 幸子, 光田 益土. 用手成形皮膚保護剤の操作性に着目した定量的評価手法の検討. 第 41 回 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, pp224, 神奈川, 2024.2.10.
2. Mawaki A, Kohta M, Yoshimura A, Haneda C, Nakatani T, Nagao S, Sugama J. In Vivo Pilot Study on the Effect of Docetaxel Injection on Vascular Permeability in Mice. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) conference, Hong Kong, 2024.3.6-7.
3. Abe-Doi M, Takahashi T, Murayama R, Sanada H, Nakagami G. Effect of palpation on time required for vessel selection during peripheral intravenous catheter placement using ultrasound. 8th World Congress on Vascular Access, Prague, Czech, 2024.4.17.
4. Takahashi T, Abe-Doi M, Murayama R, Sanada H, Nakagami G. Developing a machine learning-based risk assessment method using Transformer models for enhancing ultrasonography utilization in preventing peripheral intravenous catheter failure. 8th World Congress on Vascular Access, Prague, Czech, 2024.4.17.
5. Tamura S, Miura Y, Sugama J. Beds with angle indicators and head lift function contribute to appropriate positioning during eating and low incidence of pharyngeal residue. Workshop on Nursing Robotics, 2024 IEEE International Conference on Robotics and Automation, Kanagawa, 2024.5.17.
6. 大江 真琴, Supriadi Syafiie Saad, Suriadi, 須釜 淳子. 糖尿病患者における初発足潰瘍と再発足潰瘍の特徴. 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2024.5.17.
7. 間脇 彩奈, 光田 益土, 吉村 文, 中谷 壽男, 長尾 静子, 須釜 淳子. ドセタキセル投与モデルマウスにおける間質液動態の定量的評価. 第 9 回日本がんサポーターブケア学会学

- 術集会. pp233, 埼玉, 2024.5.18.
8. 光田 益土, 須釜 淳子. 失禁関連皮膚炎を有する脳卒中入院患者の陰部皮膚表面の細菌種分布. 第 33 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, pp213, 山口, 2024.5.26.
 9. 光田 益土, 須釜 淳子. 尿失禁を有する地域在住中高齢女性の陰部皮膚表面におけるウレアーゼ産生菌の検出率. 第 33 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, pp189, 山口, 2024.5.26.
 10. 西山 貴子, 光田 益土, 井田 美和子, 西川 圭二, 塩地 由美香, 須釜 淳子, 松嶋 文子. ワイプによる陰部洗浄清拭後の生菌数の減少: 単施設ランダム化非盲検クロスオーバー試験. 第 33 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, pp196, 山口, 2024.5.26.
 11. 竹差 美紗子, 光田 益土, 石亀 敬子, 三浦 由佳, 須釜 淳子. 軽尿失禁を有する地域在住の成人女性に対する失禁関連皮膚炎と QOL 低下の関連性. 第 33 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, pp214, 山口, 2024.5.26.
 12. 大森 鮎子, 藤城 尚美, 小柳 礼恵, 須釜 淳子. 体圧可視化ロボティックマットレス導入による褥瘡改善への効果: 症例報告. 第 33 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, pp191, 山口, 2024.5.26.
 13. 川村 亨平, 須釜 淳子, 小柳 礼恵. 脊髄損傷特化型ステーションにおける脊髄損傷者の排便データ~ASI の A と B の検討~. 第 33 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, pp194, 山口, 2024.5.26.
 14. 佐藤 文, 小柳 礼恵. 看護基礎教育で使用する教科書における排泄ケアの分析. 第 33 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, pp231, 山口, 2024.5.25.
 15. 三浦 由佳, 小柳 礼恵, 須釜 淳子. 看護職・リハビリ職・介護職のエコーを用いた膀胱・大腸の観察技術の獲得状況. 第 33 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, pp206, 山口, 2024.5.26.
 16. 大江 真琴, 須釜 淳子. 糖尿病性足潰瘍患者の生活の質に足潰瘍関連因子が及ぼす影響: 前向き観察研究. 第 33 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, pp209, 山口, 2024.5.26.
 17. 鈴木 華代, 須釜 淳子. カテーテル心筋焼灼術後の皮膚障害の状態と関連要因. 第 33 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, pp212, 山口, 2024.5.26.
 18. 河崎 明子, 小柳 礼恵, 須釜 淳子. 体圧分布可視化が看護師の褥瘡予防に関する知識、意識、行動に与える影響: 文献レビュー. 第 33 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, pp213, 山口, 2024.5.26.
 19. 梶川 智弘, 光田 益土, 西田 梨恵, 須釜 淳子. 看護職員の手荒れの有訴率とその関連因子の探索. 第 39 回日本環境感染学会総会学術集会, pp270, 京都, 2024.7.26.
 20. 斎藤 裕也, 小柳 礼恵, 眞野 恵好, 村山 陵子. 中間看護管理者の中堅看護師に対する承認行為の認識と実態に関するインタビュー調査. 第 28 回日本看護管理学会学術集会, pp92, 愛知, 2024.8.23.
 21. Miura Y, Ishikame K, Sugama J. Achievement of ultrasound skills for observation of swallowing for nursing, rehabilitation, and caregiving professionals. 第 30 回日本摂食嚥下リハビリテーション

ョン学会学術大会, pp297, 福岡, 2024.8.30.

22. 光田 益土, 高橋 麻由美, 小柳 礼恵, 須釜 淳子. 褥瘡予防支援モバイルアプリ試作モデルの導入によるケアマネジャーの知識と実践：前後比較研究. 第 26 回日本褥瘡学会学術集会, pp405, 兵庫, 2024.9.7.
23. 小柳 礼恵, 高井 亜希, 佐野 友香, 眞野 恵好, 須釜 淳子. 新型コロナウイルス感染症対策と医療の質、看護師労務状況の分析. 第 55 回日本看護学会学術集会, 熊本, 2024.9.29.
24. 竹内 さやか, 小澤 杏果, 阿部 卓司, 永吉 広奈, 伊藤 淳津子, 小柳 礼恵, 山田 理, 松浦 俊博. 便秘を有する認知症患者に排便サポートチームが介入した 1 症例. 第 4 回慢性便秘エコー研究会, 東京, 2024.10.19.
25. 佐野 友香, 小柳 礼恵, 松下 寛代, 三浦 由佳, 須釜 淳子. 訪問看護における排便ケアへのエコー導入初期の阻害要因. 第 4 回慢性便秘エコー研究会, 東京, 2024.10.19.
26. 光田 益土, 須釜 淳子. 細菌由来ウレアーゼ活性の簡便な定量化のための電気伝導度計測の適用可能性. 第 56 回藤田医科大学医学会学術大会, 愛知, 2024.10.24.
27. 阿部 麻里, 高橋 聡明, 牟田 みや子, 河本 敦夫, 村山 陵子, 仲上 豪二朗. エコーガイド下穿刺用ドレッシングフィルム越しに取得した画像の量的評価と穿刺の可否判定. 第 12 回看護理工学会, pp113, 石川, 2024.11.2.
28. 渡邊 直美, 鎌倉 やよい, 三浦 由佳, 真田 弘美. 喉頭摘出者の食道発声における音生成部位のエコーによる可視化. 第 12 回看護理工学会, pp72, 石川, 2024.11.2.
29. 光田 益土, 須釜 淳子. 皮膚保護用多層シリコーンフォームドレッシング材の摩擦力, ずれ力および圧力低減効果. 第 12 回看護理工学会, pp84, 石川, 2024.11.2.
30. 池田 真弓, 三浦 由佳, 須釜 淳子. 嚥下エコーの教育プログラムにおける課題－喉頭蓋谷と梨状窩の画質の調整と画像の描出の評価から－. 第 12 回看護理工学会, pp124, 石川, 2024.11.2.
31. 中島 真由, 光田 益土, 須釜 淳子. 看護師の勤務中のマスク交換がマスク装着部の皮膚表面の細菌数及び 多剤耐性菌数に与える影響. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本, 2024.12.8.

【刊行物】

1. 阿部 麻里, 村山 陵子. エコーでケア技術サポート編, 血管エコー (穿刺・カテーテル留置のための静脈路確保). YORi-SOU がんナーシング. 2024 年春期増刊(2024.2);245-251.
2. 三浦 由佳, 須釜 淳子. エコーの可視化で症状評価編, 嚥下エコー (咽頭残留の観察). YORi-SOU がんナーシング. 2024 年春期増刊(2024.2);242-244.
3. 小柳 礼恵 (分担). ストーマケア記録の仕方. ストーマケア・ガイドブック スタンダードケア. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会編. 照林社, 東京, 2024;358-363.
4. 小柳 礼恵, 高井 亜希, 佐野 友香, 眞野 恵好, 須釜 淳子. 高度急性期病院における新型コロナウイルス感染症拡大に伴う看護提供体制の変化が医療の質、看護師労務状況へ

及ぼす影響分析. 日本看護協会「感染拡大に備える看護提供体制の確保に関する研究助成事業」2024. <https://www.nurse.or.jp/nursing/kikikanri/infection-rgp/index.html>

5. 阿部 麻里, 村山 陵子. 末梢静脈カテーテルによる点滴時の評価. ポイントオブケア看護エコー:ポケットエコーで看護力アップ, Part 3 診療の補助行為としてのエコー. 照林社, 東京, 2024; 90-97.
6. 三浦 由佳, 須釜 淳子. 嚥下の評価. ポイントオブケア看護エコー:ポケットエコーで看護力アップ, Part 2 療養生活援助技術としてのエコー. 照林社, 東京, 2024; 74-82.
7. 玉井 奈緒, 三浦 由佳, 小路 和幸. 現任教育・生涯教育. ポイントオブケア看護エコー:ポケットエコーで看護力アップ, Part 4 エコーの教育. 照林社, 東京, 2024; 150-155.
8. 高橋 聡明, 三浦 由佳. エコー技術の遠隔支援: オンライン会議システム、AR 技術. ポイントオブケア看護エコー:ポケットエコーで看護力アップ, Part 6 各種ケアへのエコー活用例. 照林社, 東京, 2024; 186-188.
9. 小柳 礼恵. 高齢者の便秘. 自立と生活機能を支える高齢者ケア超実践ガイド, 自立・生活機能を維持するかかわり, Part 3. 排泄. 照林社, 東京, 2024; 172-177.
10. 三浦 由佳. 摂食嚥下障害の原因とスクリーニング. 自立と生活機能を支える高齢者ケア超実践ガイド, 自立・生活機能を維持するかかわり, Part 5. 食事. 照林社, 東京, 2024; 224-229.
11. 三浦 由佳. 摂食嚥下障害の評価 (食事場面). 自立と生活機能を支える高齢者ケア 超実践ガイド, 自立・生活機能を維持するかかわり, Part 5. 食事. 照林社, 東京, 2024; 230-234.
12. 小柳 礼恵. 陰部・肛門周囲皮膚炎の予防と対応, with NEO(2024.10), 37(5):108-112.

【セミナー・シンポジウム・ワークショップ・交流セッション・学園発表】

1. 村山 陵子. 血管外漏出の発生要因, 第 38 回日本がん看護学会学術集会, 教育セミナー, がん薬物療法に伴う血管外漏出の発生要因と対策, 兵庫, 2024.2.25.
2. 須釜 淳子. 様々な褥瘡要因に対応する体圧分散マットレスの進化. 第 19 回日本褥瘡学会中部地方会学術集会, 特別教育講演, 福井, 2024.3.17.
3. 三浦 由佳. エコーを用いた嚥下の可視化と食事支援. 第 194 回愛知医科大学病院 NST 勉強会・第 3 回ながくて老年医学・臨床栄養セミナー, 愛知, 2024.4.10.
4. Sugama J. Nursing science and technologies expected to respond to health needs in supporting people's lives through their lifetime. Workshop on Nursing Robotics, 2024 IEEE International Conference on Robotics and Automation, Kanagawa, 2024.5.17.
5. 須釜 淳子. 看護ケアのための便秘時のアセスメントに関するガイドライン. 第 37 回日本老年泌尿器科学会, 教育講演, 和歌山, 2024.5.18.
6. 光田 益土. 「The simulated skin shearing test」からみる TASSII の効果. 第 33 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, アルケア (株) 共催ランチョンセミナー, pp253, 山口, 2024.5.25.
7. 佐野 友香, 小柳 礼恵, 須釜 淳子, 眞野 恵子. 携帯型超音波診断装置によるフィジカ

- ルアセスメントを行う訪問看護師における体験. 第 33 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 理事会企画, pp122, 山口, 2024.5.26.
8. 積 美保子, 保坂 明美, 小柳 礼恵. 排便管理技術活用の実際と課題. 第 33 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 理事会企画, pp115, 山口, 2024.5.26.
 9. 小柳 礼恵. WOCN としてなぜ学び続けるのか. 第 33 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 理事会企画, 認定看護師として進化を続けるための戦略: 第 3 弾, pp109, 山口, 2024.5.26.
 10. 小柳 礼恵, 柳迫 昌美, 高木 良重, 貝川 恵子, 岡本 節. 触ってみよう! はじめてのエコー. 第 33 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, ワークショップ, pp177, 山口, 2024.5.26.
 11. 小柳 礼恵. 高齢者の排泄機能の向上を目指した対策, 第 66 回日本老年医学会学術集会, シンポジウム, pp, 愛知, 2024.6.14.
 12. 石亀 敬子, 三浦 由佳, 竹差 美紗子, 河裾 永恵, 須釜 淳子. 嚥下超音波検査用ファントムの開発. 第 10 回学内研究シーズ・ニーズ発表交流会. 2024.6.18.
 13. 光田 益土, 小柳 礼恵, 稲垣 喜信, 西川 圭二, 田村 茂, 石川 幸, 竹腰 加奈子, 眞野 恵好, 須釜 淳子. 失禁関連皮膚炎予防のための陰部由来ウレアーゼ産生菌の簡便な検出および細菌種の分離固定. 第 10 回学内研究シーズ・ニーズ発表交流会. 2024.6.18.
 14. 三浦 由佳, 田村 茂, 須釜 淳子. 超音波と聴診の組み合わせによる咽頭残留の持続モニタリングの試み. 第 10 回学内研究シーズ・ニーズ発表交流会. 2024.6.18.
 15. 三浦 由佳. 超音波を用いた嚥下機能評価. 第 43 回日本脳神経超音波学会総会/第 27 回日本栓子検出と治療学会, 教育講演, pp86, 千葉, 2024.6.29.
 16. 光田 益土. 床ずれ予防プログラムの導入に向けたケアマネジャーの組織準備性評価. 桐生市医師会主催 Web セミナー「ケアマネジメントに活かせる床ずれ予防の正しい知識」. 2024.6.13.
 17. 小柳 礼恵. 第 2 回排便管理講習会. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会. 東京, 2024.08.18.
 18. 織田 千賀子, 中村 小百合, 近藤 彰, 加藤 睦美, 村山 陵子, 三浦 由佳, 浅岡 裕子, 須釜 淳子. デジタル時代の臨床判断力の育成～看図アプローチを用いて～. 日本看護学教育学会 第 34 回学術集会, 交流セッション, 東京, 2024.8.19.
 19. 織田 千賀子, 加藤 睦美, 近藤 彰, 中村 小百合, 村山 陵子. 新人看護師が臨床現場でのギャップを埋めるための新たな教育プログラムの提案. 第 28 回日本看護管理学会学術集会, インフォメーション・エキスチェンジ 56, 愛知, 2024.8.23.
 20. 眞野 恵子, 神納 美保, 村山 陵子 (座長). ケアの質向上のためにエコーを活かす: 安全・安心な化学療法における末梢静脈カテーテル留置に向けて. 第 28 回日本看護管理学会学術集会, ランチョンセミナー 2, 愛知, 2024.8.23.
 21. 村山 陵子. 血管外漏出の発生要因の抽出, テルモがん薬物療法 Web セミナー, 愛知 (オンライン), 2024.8.28.
 22. 須釜 淳子. アクティブな褥瘡対策チーム. 第 26 回日本褥瘡学会学術集会, pp293, 理事

長講演，兵庫，2024.9.7.

23. 光田 益土. 床ずれ予防プログラムの実装研究に向けた取り組みと今後の課題. 第26回日本褥瘡学会学術集会，委員会企画5 在宅医療委員会 在宅褥瘡予防におけるアドホック連携作業部会企画，在宅におけるサステナブルな褥瘡予防プログラムの実装：ケアマネジャーとの協同，pp375，兵庫，2024.9.7.
24. 村山 陵子. 医療従事者と医工連携看護師・診療放射線技師・臨床工学技士，東京都医工連携 HUB 機構「令和5年度 医工連携人材育成講座」第7回，2024.9.11. (オンライン)
25. 村山 陵子，看護業務の救世主！？エコー下末梢静脈ルート確保について～診療看護師(NP)による看護業務支援～，エコー下末梢静脈穿刺のエビデンス，第2回日本NP学会中部地方会学術集会共催セミナー，愛知，2024.9.14.
26. 神納 美保，村山 陵子 (座長). エコーが使える！：化学療法における安全・安心な末梢静脈カテーテル留置. 第55回日本看護学会学術集会，ランチョンセミナー1，熊本，2024.9.27.
27. 小柳 礼恵，竹内 さやか，山田 理，松浦 俊博. 成果を上げる排便ケアチームの実践. 第4回慢性便秘エコー研究会，特別講演①，東京，2024.10.19.
28. 竹内 さやか，小澤 杏果，阿部 卓司，末吉 広奈，伊藤 淳津子，小柳 礼恵，山田 理，松浦俊博. 便秘を有する認知症患者に排便サポートチームが介入した1症例. 第4回慢性便秘エコー研究会，一般演題，東京，2024.10.19.
29. 三浦 由佳. どんなときでも安全に食べられるために：ふだんからの口腔内環境の評価. 第12回看護理工学会学術集会，シンポジウム3 口腔内環境と口腔・全身の健康管理 ―平時と有事、それぞれの問題点―，石川，2024.11.3.
30. 三浦 由佳. エコーで「見える！」がもたらす食事の楽しみと安心感. 第12回看護理工学会学術集会，ランチョンセミナー3 エコーによる可視化がもたらすケアのアップデート，石川，2024.11.3.
31. 光田 益土. The simulated skin-sharpening test からみる TASS® IIの力の軽減効果について. 第21回日本褥瘡学会関東甲信越地方会学術集会 日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会・2024年度関東甲信越地区 床ずれセミナー，ランチョンセミナー3 行こうぜ。摩擦・ずれ対策の向こうへ！，東京，2024.11.9.
32. 三浦 由佳. 可視化で食べるを支える～エコーを用いた食事支援～. 第17回嚥下研究会『嚥下マニア』，愛知，2024.12.7.
33. 村山 陵子. 看護基礎教育におけるエコーの必要性. 第44回日本看護科学学会学術集会，ランチョンセミナー2 “第6のフィジカルアセスメント” エコー演習を教育に入れていく取組，熊本，2024.12.7.
34. 吉永 尚樹，須釜 淳子，加澤 佳奈，原 あずみ，グライナー 智恵子，落合 亮太. COVID-19 看護研究等対策委員会の活動に基づく 研究成果から考える研究・学術推進. 第44回日本看護科学学会学術集会，交流集会 K-02，熊本，2024.12.7.
35. 竹原 君江，村山 陵子，樋之津 淳子，阿部 麻里，四谷 淳子，松井 優子，高木 良重，巻野 雄介，鈴木 美穂，村井 孝子. 看護基礎教育へのエコー技術演習の導入について考えよう！，第44回日本看護科学学会学術集会，交流集会 K-78，熊本，2024.12.8.

【受賞歴】

1. 座長選出優秀演題賞.

石黒 幸子, 光田 益土. 用手成形皮膚保護剤の操作性に着目した定量的評価手法の検討,
第41回 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会神奈川, 2024.2.10.

2. 日本助産学会 学会賞 (学術賞)

Murayama R, Ashida S, Minatani M, Matsuzaki M, Yoshida M, Haruna M. Symptoms of pelvic organ prolapse and related factors during five years after vaginal delivery: A cross-sectional study. Journal of Japan Academy of Midwifery, 2023, 37(3): 243-251, 2023.



社会実装看護創成研究センター 2024 年報

発行年月日：2024 年 12 月 31 日

発行責任者：〒470-1192

愛知県豊明市杓掛町田楽ヶ窪 1 番地 98

藤田医科大学研究推進本部 イノベーション推進部門

社会実装看護創成研究センター

センター長 須釜淳子
